

観光振興に関する提言

令和4年3月25日

北上市議会

(産業建設常任委員会)

観光振興に関する提言

- 提言 1 各地区行事も含めた年間イベントカレンダーの設置
- 提言 2 観光コンベンション協会の機能強化とフィルムコミッションの創設
- 提言 3 夏油高原エリアを活用した観光、イベントの強化に努めること
- 提言 4 体験型イベントの拡充と地域資源の発掘

【提言に関する調査研究成果】

1. 提言の背景

令和2年1月から新型コロナウイルスが蔓延し始め、国内はもとより世界的な流行となるパンデミック状態によって人々の移動が著しく制限された。これにより、様々な経済活動も制約され、特に観光業においては、壊滅的なダメージを受けた施設なども多発した。

また、この新型コロナ禍においては「マイクロツーリズム」に注目が集まっておりこれは、当市の目指す地域資源の活用による地域づくりなどにも共通する視点である。そして、新たな産業ビジョンの中でも「地域資源の魅力づくり及び発信の継続的な取り組みの展開」や「地域資源を活かした着地型観光の充実」なども挙げられている事から、観光施策の見直しなどが必要ではないかと考える。

更に「観光立国推進基本法」の理念にそって地域の伝統・文化・自然等の観光資源を生かし、住民が誇りと愛着を持てる持続可能な観光地域づくりを進める必要がある。

2. 委員会としての調査経緯

当委員会では、現状の問題点や課題を探るためヒヤリングや意見交換等により調査を実施した。調査内容とその結果、ヒヤリングに対する回答は次のとおり。

(観光に関する部分のみ掲載)

(1) 観光コンベンション協会との意見交換

- ・日時：令和2年10月8日（木）午前10時から午前11時30分
- ・場所 議事堂第2・3委員会室

①観光コンベンション協会の人員体制について

- ・令和2年度から、スポーツリンク北上と統合し事務所の場所も移り、人員も増やした。
- ・「北上展勝地さくらまつり」と「北上みちのく芸能まつり」は当協会が事務局であり、夏油高原紅葉まつりは北上市商業観光課、ヒルクライムは実行委員会で担っているが、すべてのイベントの当日の事務や後方支援も当協会で行っている。

②PR体制について

- ・パンフレットは、市の商業観光課で作成するものと、当協会で作成しているものがある。
- ・SNS等の活用状況として、Twitter と Facebook では随時情報発信しているが、Instagram を始めた。大きな自治体は YouTube の発信も行っているようである。みちのく芸能まつりのイベントは YouTube での配信を行う予定である。

- ・ホームページとしては「北上魅力辞典」から「きたぶら」に移行し、新しいデータに更新しつつ、協会員が更新できるようになっている。

③地域のイベントについて

- ・市の地域づくり課から市内16地区の広報誌を定期的を取得し、地域のイベント等は把握しているが、任意団体が主催したものなどは把握していないものもある。
- ・全地区を網羅したパンフレットなどは作成していない。

(2) 夏油高原スキー場の視察

- ・日時：令和3年4月8日（金）午後1時50分から午後4時
- ・場所：夏油高原スキー場

① 施設面について

- ・平成4年12月に開業以来、全体的に老朽化が進んでいる。特に、索道施設では山頂付近の防風ネットは機能しておらず、早急な補修が必要であり、建物、発電設備、ゲレンデ整備車なども修繕や入れ替えが必要である。しかし、運営主体の北日本リゾートとの委託契約10年のうち残り2年となっている事から、リースなどによる入れ替えが出来ない状態とのこと。
- ・施設管理部門のスタッフが少なく高齢化も進んでいる。令和3年1月に屋根の除雪の際に転落して死亡者が発生した事から、1名の補充を検討しているとのこと。
- ・発電施設を維持する為に必要な資格（電検3種）の保有者が居ない為、外部の名義を借りている状態である。

② 営業面について

- ・営業スタッフは充実しており、別会社とした仙台営業所も充分機能しているようだ。また近年の取り組みとして、豊富な積雪と恵まれた自然を活かした「ツリーランエリア」を開放し、国内だけでなく海外への売込みも積極的に行うなど営業努力によって徐々に海外客が増えてきていたが、その矢先の新型コロナ禍であり、海外客は激減した。
- ・オールシーズンの収益を目指して、キャンプ場の整備や、入畑ダムを利用したSUPなどを外部組織と連携して展開している。また、やや高級な宿泊施設も展開し、冬以外の売上向上を図っているが、現在のところ夏の売上は10%程度となっている。

③ その他

- ・スキー場はレクリエーションなど楽しむ森林という位置づけであり、森林を維持していくために、国は原則国有地を売らない方針としている。行政も一緒に事業を行う場合は例外としているが、現在、スキー場は借りている状態で運営できているため、国有地の買取りは難しい。しかし、観光庁ではリゾ

ート化を推進するために国有林の買取りを推奨しており、省庁間がかみ合わない部分がある。

(3) 北上市商工部商業観光課との意見交換

「夏油高原スキー場による北上市への経済波及効果」研究成果説明会

・日時：令和3年10月15日（金）午後1時から午後3時50分

・場所：議事堂委員会室

①（一財）北上観光コンベンション協会が実施する主な事業と市の関りについて

- ・同協会では、主催事業として「北上展勝地さくらまつり」「北上・みちのく芸能まつり」を実施し、共催事業としては「きたかみ夏油高原ヒルクライム2019」、「夏油高原紅葉まつり」に実行委員会（運営委員会）の一員として参画している。
- ・「民俗村まつり」ではスタッフとして従事するなど市内各種イベントに関わるほか、「日本白鳥の会総会」などコンベンション誘致事業も展開するとともに、返礼品として物産品等の開発・紹介につながる事業である、「ふるさと納税」の特典発注やプロモーション等に関する業務を受託している。
- ・ボランティアセンターを運営し、スポーツイベント等におけるボランティアについて募集や確保の役割を担っている。
- ・市は主催事業においては協会とともに事務局を務めているほか、事業への後援という形での関りがあるとのこと。

②商業観光課、（一財）北上観光コンベンション協会、商工会議所観光部会の役割について

- ・市（担当：商業観光課）は、観光拠点や観光施設等の整備、国や県、観光関連団体等市民との協働による取組みや調整を行い、観光振興施策を推進する。また、各主体が自主的に取り組む観光振興事業を支援する。
- ・観光コンベンション協会は、観光振興を推進する中心的な存在として具体的な事業を実施する。また、観光情報の収集や提供、誘客に向けたPR活動を展開し、更にコンベンションの誘致や支援を行う。
- ・商工会議所観光業部会は、商工会議所会員のうち旅行斡旋業、旅館業、飲食業、旅客運送業で構成されており、業界の健全な発展のため研修や提言等を行う。

③「フィルムコミッション」設立の検討について

- ・市としては、フィルムコミッションの取組みについて、民間の主体的な動きとそこに協力する団体や市民の連携のもと、行政がサポートしていく形が望ましいと考えるが、市内において機運の盛り上がりは高まっている状況ではないと捉えている。
- ・北上市において、一時地域で若干話題になったことはあったが、その後は民

間でも市内でも話題や議論はない。

- ・市の関わり方としてはコンベンション協会等からの盛り上がりに対して支援する形が良い。

④「夏油高原スキー場による北上市への経済波及効果」研究成果について

- ・岩手県立大学と北上市との共同で行った、夏油高原スキー場による北上市への経済波及効果の分析について研究成果の説明を受けた。
- ・調査は、スキー場への入場者数から推測したもので、客の消費量はみているが企業側（スキー場運営事業者等）の消費等は反映されていない。
- 分析は、あくまで推測レベルで一つの可能性として捉えるべきもの。

3. 問題点の整理

これまでの調査結果などを参考に、市の観光施策に関する問題点を次のとおり整理した。

- (1) 市内16地区の資源を生かしたような観光施策が見られない。しかし、マイクロツーリズムに即した各種イベントは実施し始めているので、その検証も必要である。
- (2) 市の商業観光課、観光コンベンション協会、商工会議所観光部会などの役割分担があまり明確ではないようだ。特に、観光コンベンション協会は、スポーツリンクを吸収し、ふるさと納税の返礼品発送なども請け負っており、人員体制は強化されているものの、役割がまだ明確になっていないようだ。
- (3) 冬の観光資源である夏油高原スキー場と観光コンベンション協会との連携が不明確である。また、国有地の買取りによる通年リゾート開発も必要ではあるが、リスクが伴う一方で、買わない場合のリスクもあり、慎重に議論すべきである。
- (4) SNSなど、インターネット関係の広報活動が充実しつつあるが、もう少し工夫が必要である。
- (5) 四季を通じた観光やイベントの掘り起こしが必要である。

4. 問題点に対する考察

- (1) 現在、商業観光課では市内16地区が実施しているイベント等については、16地区それぞれの広報誌を定期に入手し、把握しているものの、その情報を更に発信することまでは行っていない。これは、勿体ない事であり、イベント名や日時など簡単な内容でも良いので、何らかの方法で発信すべき。また、ホームページやフェイスブックなどでの情報発信も16地区間で差があり、せつかくの地域ごとの観光資源や観光施策が市内外に伝わっていない状況である。

現在は新型コロナ禍により、イベントや行事などが中止または延期されているが、今後は身近な観光スポットを訪ねたりする「マイクロツーリズム」に即した各種イベントや体験型イベント等により新しい北上スタイルを打ち出

す事は重要だと思われる。

- (2) 観光コンベンション協会の取り組みは理解するが、事業が地域芸能まで関わっており範囲が広すぎるのではないか。事業の整理と役割の明確化により、観光事業を掘り下げて強化していく必要があるのではないか。
- (3) 夏油高原スキー場については、積雪量が豊富であり、早い時期からのスキー客が見込める。但し施設が老朽化しており、営業中の故障などは避けなければならない。その為には計画的な更新や補修が必要である。また、運営主体としては国有林の取得を希望しているようだが、買い取った場合のメリット・デメリットを分析明示すべきである。
- (4) SNS・ネット活用とよく言われているが、発信する事は誰でも出来るが、受ける側においては興味ないものは見ない。その為、いかに興味を持って頂くかが重要。更に、興味を持って頂いた方から、その輪を広げていく事も重要。しかし、これらについての取り組みが見受けられない。
- (5) 四季を通じた観光施策やイベントに乏しいが、TV番組やCM撮影などを誘致して、北上市の四季や特定のイベントやスポットが紹介される事で、年間を通して来訪者や関係人口の増加が期待できるのではないか。特に手っ取り早いのは、まちを紹介する番組や、グルメ番組などを誘致する事が効果的と思われる。

また、「いわて北上マラソン大会」が終了し、後継イベントの実施に向けて準備が進んでいる。「きたかみ夏油高原ヒルクライム」は10回目を節目に開催を見直す方向でもあり、新緑から初夏にかけて交流人口拡大を図るイベントが少ないことから強化が必要である。

5. 提言内容の説明

調査研究から明らかになった課題への対応として取り組むべき、具体的な4つの提言を行う。

提言1 各地区行事も含めた年間イベントカレンダーの設置

市内16地区のイベントなどの情報は、観光コンベンション協会のホームページ等に、年間行事カレンダーを設置して紹介し、1ヶ月に1回程度更新していく事で地域の細かな、最新の情報を発信できる。また、ケーブルTV、コミュニティFM、SNSなども活用していく。

提言2 観光コンベンション協会の機能強化とフィルムコミッションの創設

SNSによる情報発信の内容と方法を魅力あるものにする事や、各種の撮影を誘致するためにも、フィルムコミッション機能を同協会に持たせるなど、機能と役割を強化していく。

提言3 夏油高原エリアを活用した観光、イベントの強化に努めること

生態系の保全、森林や自然環境の保全に十分考慮しつつ、オールシーズ

ンにおけるイベント実施や施設活用について更なる拡大に努めること。

また、施設の老朽化対策や更新については計画的に実施していく必要があるが費用対効果をきちんと検証すべき。

提言 4 スポーツ・体験型イベントの拡充と地域資源の発掘

伝統芸能の体験、農業体験、工芸品作成体験、伝統料理作りと会食などの体験を通じて来訪者が地域の魅力を発見する観光づくりをすすめる。更に市民から自慢できる景観等の情報を収集し、名所の発掘を行う。

また、ふるさと納税制度を活用し、新緑の時期に北上市の自然を楽しみながら参加できるスポーツイベントなどを企画し、参加権を返礼品とすることによってイベントのPRと参加者の拡大を図る。

資料

■ 地域資源の視察、イベント参加

『e-BIKEで行く！爽快サイクリングツアー』

昨年度まで地域おこし協力隊員だった深津咲奈さんが、個人事業主となり「北上巢箱」を立ち上げ、各種のスポーツツーリズムを企画しており、その中の一つである「e-BIKE でいく！爽快サイクリングツアー」に参加した。これは、岩崎新田から金ヶ崎町の至る、田園牧草地帯を中心としたコースを巡る約3時間のサイクリング企画で、e-BIKE（電動アシスト付きのスポーツタイプの自転車）を利用してアップダウンも気にしないで軽快に走れるのが特徴である。

・参加料：3,500円（e-BIKE、ヘルメット、ジェラート代込）

*今回は参加者が私1名だけだったので料金は5,000円

【北上巢箱の実績】（北上スポーツリンク時代の実施も含む）

（1）水沢鉦山ツアー

・岩沢の水沢鉦山跡地を訪ねるハイキングツアー

・実施回数：令和元年11月4回、令和2年11月7回、令和3年5～6月10回。

・参加者総数：178名。

（2）e-BIKE でいく！爽快サイクリングツアー

・黒岩コース実施回数：令和元年4月1回、令和2年5月1回、令和3年6～7月3回。

・黒岩コース参加者総数：17名。

・金ヶ崎コース実施回数：令和3年6～7月6回。

・金ヶ崎コース参加者総数：17名。

【内容】

・e-BIKEは事前に充電等は済んでおり、サドル高さの調整と、ボタン等の使い方の説明を受けて出発。ヘルメットも貸し出しするが、今回は自前で準備した。

・岩崎新田のゲストハウス虹波（現在は無人）をスタートして、サンタハウス脇を通って岩崎新田橋を渡り、千貫石温泉方面へ向かい、千貫石森林公園でいったん休憩した。その後、県道花巻平泉線に一旦戻り、やや東側の道路に入り「カウベル」にて地元産牛乳を使用したジェラート（イタリアのアイスで果汁、果肉、コーヒー、香草等を混ぜた物を凍らせたもので、乳脂肪分が5%程度のヘルシーさと原料の風味を活かされている）を食べる。その後、また県道花巻平泉線を少し南下し、県道の東側一帯の牧草地帯をぐるぐると巡り、景色が良いポイント等で休憩しながら、アップダウンの多いコースを約2時間程度走行して、スタート地点に戻り終了。

【所感】

・天気が良くて、暑かったが走ると風を受けるので、あまり暑さが気にならな

かった。

・e-BIKEは初体験だったが、思ったより足に負担は掛かり、良い運動になる。ただ、電動アシストとギアチェンジにより平坦時も登坂時もあまり変わらず走行できる。登坂斜度等によるギアの選択がポイントだと感じた。ロードバイク等より、足への負担はかなり少ないし、ケイデンス（ペダルの回転数）を上げるとアシストもフォローしてくれるので、高ケイデンスクライムも可能であり楽しかった。

・今回参加した金ヶ崎コースは、昨年度の「きたかみ新城ロード100」のPRも兼ねたイベント「夕焼けライド」とほぼ同じコースだそうで、リピーターも居るとの事。ニーズはあるようだ。

・参加者は、ほとんどが地元の方が多いが、例えば北上の方が盛岡方面の友人を連れて参加するというケースもあるし、私の様に一人での参加と複数人での参加は半々との事。参加者年齢も、20代から60代後半までと幅広いとの事。

・今回は私一人だけの参加だったが、e-BIKEが4台だけなので、原則4名までしか参加できないのが残念。（料金を追加して、観光コンベンション協会のレンタサイクルを借りてくる方法もある）ただ、人数が多くなると、サイクリングも安全上、難しくなるので主催者側の人数や経費などを含めたバランスが難しいかもしれない。

・この様なサイクルイベントは、県内でも少ないと思われ、大変、面白いイベントだと思うし、規模の拡大なども含めて継続して欲しい。（9月19日に「栗駒焼石ほっとライド2021」というイベントがあるようだが、開催など参考になると良い。）

・マイクロツーリズムという観点では、とても良い企画だと思う。これをどう広げていくのか、どういうPRをしていくかが課題である。また、参加者の拡大には経費も増加する為、規模と継続性が課題である。



『地域資源探索～^{はちもり}八森神社例大祭～』

更木地区の神社で地域の安全と五穀豊穡を願い、毎年7月の第三土曜日に例大祭を行っている。

八森神社は地域では別名天王様と呼ばれ、そのご神体は龍天王とされているが、ご神体像の頭は牛頭でその角がキュウリに似ている事と、この時期の多く取れた野菜がキュウリで、奉納された野菜もキュウリだったことから地域ではキュウリ天王様として親しまれている。

今年は、昨年に引き続きコロナウイルス感染症対策として、氏子・役員による縮小しての例大祭でした。今回は、新たに権現舞の獅子頭を新調されたことから、初舞の奉納も行われた。

因みに、北上市都市プロモーション課において、企画作成された「トリプルアニバーサル」用ビデオ(YouTube発信)の一場面として登場している神社である。



『～浮牛城まつり～企画展』 ※コロナ禍に伴うまつり中止のため

浮牛城まつりは、2007年から始まった歴史と文化薫る夏の大会イベントである。目的として、口内町の歴史文化や民俗芸能への理解を深め、後世に伝え守っていくこと、世代や地域を越えた交流によって地域を元気にし、持続可能な地域を構築するために開催されている。(コロナ禍により2年間開催中止を余儀なくされている。)

北上市は、地域主体のお祭りが盛んに開催されている。黒岩のお滝さんまつりや、江釣子古墳まつり、岩崎新田の夏油高原紅葉まつり、市内中心部、黒沢尻地域の火防祭など、地域の方々がその住む場所を盛り上げ、活性化するための努力を示した証である。年間を通してこれほどまつりを行なっている所は少ないと思う。祭の中に地域の伝統芸能を取り入れている所もあり、過去からの伝承の火を消さないための市民の熱意が感じられます。「伝統芸能だけでなく、まつり文化が根付いている北上市をアピール出来ないものかと考える。



■ 関係団体との意見交換・ヒヤリング

『北上商工会議所との意見交換』

- ・日時：令和2年10月16日（金）午後3時30分から午後4時50分
- ・場所：北上商工会議所3階会議室

○新型コロナ禍における対策事業

- ・令和2年は日本商工会議所が店舗支援型で実施した「北上みらい飯」プロジェクトを2つの支援形態で実施し、事業者を支援したほか、新型コロナ緊急資金への利子補給、新型コロナウイルス感染症対策経費を県と市の事業により支援した。また、北上市独自の地域飲食店応援事業については、飲食券の回収率が94.2%という実績であった。
- ・「北上みらい飯」の継続は、日本商工会議所が地方とタイアップして実施したもので、クラウドファンディングの手数料は通常高額だが、この事業により手数料が割安なので取り組んだものだが今後については未定である。

『北上商工会議所へのヒヤリング』

○新型コロナウイルス感染の拡大による市内事業者への影響等について

- ・「国・県・市が実施している事業者への支援策について」

国の支援策は手続きが煩雑であり理解しにくい。飲食店等への支援は行き届いているものの卸売業（酒類・食材）への支援は手薄である。

また、割引により客を取り込む手法の「GO TO」は一過性の売り上げ確保にはなるが、割引になれた消費者意識を戻すまでに時間を要し景気回復には時間がかかるのではないか。